

分 野 (1) 気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究

研 究 課 題 名 : ②アレルギー疾患の進展予防・管理によるぜん息の発症、増悪の予防、改善効果

申 請 課 題 名 : 保健機関が実施するぜん息事業と教育・保育機関との連携によるぜん息の発症・増悪の
予防、改善のための新しいシステムの構築に関する研究

調査研究代表者氏名: 新 宅 治 夫

評価コメント

- ・ぜん息ドックを構築、アセスメントシート作成して自己管理支援を目指す試みである。
- ・ぜん息ドック等で得られた調査結果を他の医療関係者や学校の保健事業関係者に伝えて情報を互いに共有して、ぜん息患者の管理に役立てることが出来れば、研究結果を即社会に還元できることになり、良いアイデアである。
- ・このようなシステムが有効であることが実証されれば、他へも普及すると思われるのでその社会的意義は大きい。
- ・“ぜん息ドック”を開設してぜん息児のケアを支援するというのが本研究の主な目的と理解しているが、これには色々な機関の協力が必要である。
- ・非専門のかかりつけ医が管理しているコントロールされていないぜん息児を、いかに専門医療機関に誘導できるかが鍵である。
- ・連携の手段としてクリニカルパスの工夫も必要であると思う。
- ・ぜん息ドックの内容の周知方法に一層の工夫を要する。
- ・地区医師会の理事を協力者に含めることは事業の展開に資する。
- ・医師会、小児科医会との密接なワークによる紹介により患者を増加させることが必要と考えられる。
- ・自己管理支援ノートの活用を計り、本人のモチベーションをたかめることが有用と思われる。
- ・このような情報の共有が実際にどのように役に立ったか、そのアウトカムを検証する必要がある。
- ・どのような方法で情報を共有するのが効率的か、また、どのような情報が患者にとって有用か、またどの範囲までの情報を共有するか、プライバシーの制約を十分考慮した上で調査研究してもらいたい。
- ・開設された“ぜん息ドック”の利用者が果してどの程度いるのか疑問を感じる。
- ・アンケートでぜん息ドックを必要とする理解度が低いことがわかっているので、その必要性を啓発すると同時に、その有用性のデータを十分集積する必要があり、研究期間中に目的を達成できるか不安がある。
- ・ペリオスチン、コチニンなど、基準値がまだはっきりしない物質をアセスメントシートに入れる意味があるか、どうしても入れるのであれば、その意義等をシートに記載する必要がある。